

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍における運営推進会議の開催方法について、十分な対応が取れておらず書類作成のみで終了してしまっている。また、開催出来ていた時期でも参加メンバーが欠席であったり、地域の有権者の方の参加者数が少ない点が課題である。	コロナ禍であるからこそ、普段参加できていない方々にも書類送付という形で広く事業内容を周知し、より内容理解をして頂いたうえで、協力を得ながら入居者がより良い生活を送れるようにサービス内容の改善をする。	書類送付をする時期だからこそ、家族様はもちろん、現在まで参加いただけいなかった方(居宅CM、薬剤師、社協、地域包括、地域の有権者の方々)にも情報の共有を依頼するためにも、資料を郵送し、要望や意見、指摘を頂きながらサービスの改善に努める。	2ヶ月
2	10	コロナ禍において施設としての面会方法を模索した結果、ドア越し面会の他にLINE等を活用して写真や動画を送ることで、現状の把握をして頂いていたが、WEBが苦手な家族様への対応が疎かになり、暮らしの様子が分からない、もっと様子を知りたいという要望がある。	WEBが苦手であったり、面会に来るのが難しい場合でも、どの家族様も入居者様も平等に顔や様子が見られる様に、既存のシステムも行いつつ、日常の情報提供の仕方として別の方法も考える。	WEBが苦手な方がいる以上、文書送付が良いと考えられるため、施設内で作成していた月報誌を他サービスとグループホーム用とで分けて作成し、家族様に沢山の方の様子が分かるように作成します。また、月報誌誌外でも、電話や手紙等で様子を伝えていく様に努める。	1ヶ月
3	35	コロナ禍の対応で人の密集を避けていた為に、避難訓練が規定通りに出来ていない。また、事業継続計画も特養とグループホームが一体化している為、サービス内容に基づき、独立した計画や災害マニュアルが必要である。	各入居者にあつた避難方法や避難経路を事前に整理していくことで、安全に生活をしていただき、職員も緊急時にスムーズに動けるようにマニュアル作成と訓練をしていく。	事業継続計画に沿って、各種災害マニュアル(水害、地震、火災など)を作成し、訓練に活用していく。また、コロナ禍ではあるものの、職員だけの想定訓練等は随時行い、緊急時に職員がスムーズに動けるように訓練・指導に努める。	3ヶ月
4	6	身体拘束適正化委員会と勉強会等の資料や議事録が合同で保管されていた為、内容が乱雑になっていた。	身体拘束適正化のための指針や委員会の開催方法や議事録の保管方法、周知方法を改めて検討し、職員がそれらに沿って動けるように内容の整理に努める。	適正化のための指針や、適正化検討委員会、勉強会も行っており、勉強会も各職員が主体となって考えられるように工夫しているが、開催方法や書類の保管方法に課題があるため、それぞれを決められた時間内で連続して開催をするが、会議の始まりと終わりを明確にし、それぞれの議事録を作成できるように進行方法の改善に努める。	2ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。